

きつねの嫁入り行列が10年

今年はラブライバーの新郎新婦

沼津あげつち商店街振興組合は、上土朝日稲荷神社（お稲荷さん）にちなむ恒例の「きつねの嫁入り行列」を十四日に行う。

同神社に伝わる昔話を基に平成二十二年、半世紀ぶりに復活して以来、本物の新郎新婦を迎えて毎年行い、今回で十回目。

今年の新郎新婦役はラブライバーのカップル。多くのファンが行列に参加し、新郎新婦を乗せた人力車と共に隊列を組み、中心市街地を練り歩く。

同日は午前十一時半から花嫁一行による沼津港での「花嫁行列」に始まり、我入道船着き場へ移動し、我入道の渡りで上土町に向かう。

午後一時から階段堤

で神前結婚式が行われ、上土朝日稲荷神社に貝を奉納した後、よさこいチーム「りぐる」による演舞に続き、きつねの嫁入り行列がスタートする。

花嫁、花婿が揃った「きつねの嫁入り行列」の本番は二時から。三時前に神社前に戻り、記念撮影やウェディングケーキのカット、イクメンきつねの表彰などのイベントを行う。夜には、申し込みをした人が出席するウェディングパーティーが開かれる。

行列参加者は一般からも募集しており、希望者は同日午前十時から狩野川右岸階段堤で始まる「きつねメイク」をしてもらう。参加は無料。揃いのTシャツを販売する。

一方、沼津あげつち商店街振興組合の峯知美副理事長は、三島市の県東部理美容専門学校でメイクを学ぶ生徒と共に中央高の生徒「きつねメイク」の指導を先月、中央高で行い、

生徒十四人が参加した。参加者の顔に施す「きつねメイク」は毎年、高校生と同専門学校の学生有志に協力を求めて事前の指導を行っており、行列の当日は、高校生が一般の参加者を対象にしたシンプルメイク、専門学校生がプロ用の化粧品を使って白塗り込みの本格的なメイクを担当する。



専門学校生らの指導を受け「きつねメイク」を練習する生徒達＝中央高で

中央高で行われたメイクの指導では、峯副理事長が生徒達にイベントの概略を話した後、生徒をモデルにメイクを実演。白い化粧で鼻筋やひげのライン、耳や目じり、鼻先に赤や紫色のラインを入れたメイクの基本を教え、生徒同士で実践した。

同席した同専門学校の安藤宏通校長は「当日は学生十二人が参加する予定。社会貢献活動の一環として地域のイベントでメイクを担当し、静岡市での大道芸ワールドカップ、三島市のハロウィン・パレード、函南町の猫おどりにも参加している。学生がイベントを通じて、メイクをしながら老若男女と接してコミュニケーションを図ることで、美容師になった時、その経験を生かしてほしい」と話している。